

「社会福祉基礎」で専門家の授業を行いました

テーマ「医療・福祉にかかわる専門職」 ～作業療法・言語聴覚療法～

5月26日（木）2限、3年生の選択科目『社会福祉基礎』において、サンビレッジ国際医療福祉専門学校教員 高木 正剛先生（作業療法士）、西川 ゆかり先生（言語聴覚士）による授業を行いました。テーマは『医療・福祉にかかわる専門職』、3年2組の科目選択者16名が出席しました。その様子を紹介します。

授業はパワーポイント「リハビリのお仕事 ～作業療法・言語聴覚療法を中心に～」を用いて、解説資料と現場で使われている器具を示されながら進みました。



【『社会福祉基礎』の授業の始まり】
講師は高木先生と西川先生です。



高木先生からリハビリで使う器具を見せていただきながら説明を聞きます。

1. 作業療法・言語聴覚療法とは

「病気や怪我により、体や心が突然不自由になると、病院や施設で早い段階からリハビリが開始されます。リハビリの内容は手足や口の動きをよくする**作業活動**を通じた訓練と、食事、着替え、入浴など、**生活に必要な動作訓練**などを行います。」

2. 作業療法士・言語聴覚療法士の行うリハビリ

「**作業療法士・言語聴覚療法士**は、**作業活動**を用いて、実践的な治療を行います。」

「**作業活動**とは、生活に関わる全てのことである、**生活活動**、**仕事・学習活動**（農作業・勉強など）や、豊かに生活するために必要な動作全般である、**作る活動**（編み物・陶芸・木工など）、**運動活動**（サッカー・バレーなど）を言います。」

「手・足・口の動きをよくする基本訓練に加え、楽しみながら行える訓練も治療として取り入れます。楽しみながら訓練を行うことでやる気を引き出します。」

「**言語訓練**を体験してみましょう。『**パタカラ体操**』をします。『**パ**』は唇を破裂させるように発音します。上下の唇の開け閉めをして『**吸う・飲む**』力をつけます。『**タ**』は舌の先を歯切れよく発音します。舌の先を使って『**食べ物を押しつぶす**』力をつけます。『**カ**』は舌の奥を喉に押しつけ

るように発音します。舌の奥（付け根）を使って『飲み込む』力をつけます。『ラ』は舌の先をくくる回して発音します。舌を反らせて『食べ物を丸める』力をつけます。」



西川先生から言語聴覚療法学科での学習内容を聞きます。



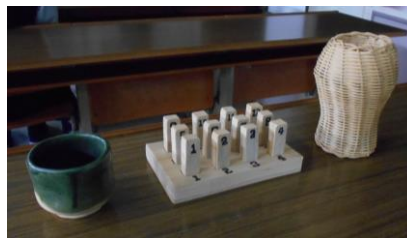
言語訓練の一つ『パタカラ体操』をやってみます。

3. 福祉用具

「体や心のリハビリ以外にも、様々な福祉用具を使いこなし、できない所を補助してできるようにしたり、介助の負担をなくしたりします。札幌式トイレ、電動車椅子、柔らかい食事、移動用ロボット、パワーユニット、身障者用バイクなどがあります。」



(左) 自分の言葉を相手に伝えるための装置



(中) 作業活動で制作した陶芸作品と訓練で使われる器具

(右) 作業活動で制作した手芸作品



4. 作業療法士・言語聴覚療法士の勤め先・仕事内容

「労災病院、デイサービス、総合病院、老人保健施設、作業所、特養、訪問リハビリ、小児病院、クリニック、保健センター、精神科クリニック、精神科病院などで勤めます。仕事内容は、例えば、新生苑では姿勢の評価、生活動作能力の評価、移動動作能力の評価、介助法・腰痛予防勉強会、福祉用具メンテナンス・選定、訪問リハビリ、環境調整などを行います。」

5. 作業療法士・言語聴覚療法士になるためには

「作業療法士・言語聴覚士になるための養成校は、全国に約170校あります。養成校は大学と専門学校があり、必要な医学的専門知識・技術を学びます。また、病院や施設で実習を行います。通常3～4年で卒業し、国家試験を受験し合格することが必要です。」

6. 最後に

「作業療法・言語聴覚療法は非常にやりがいのある仕事です。部活動、趣味、勉強、感情も役に立ちます。将来、福祉やリハビリの道を志してくれとうれしいです。」

授業後の振り返り

➤ 生徒の感想

「作業療法士と言語聴覚士についての理解や知識を増やすことが出来ました。お年寄りや怪我によって動きにくくなった方に対してのリハビリだけだと思っていたけれど、今回の授業で子どもや大人に関係なく、たくさんのお手伝いをしていると分かりました。利用する方々それぞれに合ったリハビリ方法で、できることを増やすお手伝いをする仕事は大変だけれど素敵だと感じました。実際、夏休みにこの職業を経験したことと今回の授業から作業療法士や言語聴覚士にも興味が湧いてきました。」

「作業療法士については、名前は知っていても詳しい内容はよく分かりませんでした。事故で障がいをもってしまった人に、どのようにして不自由になってしまった手足を楽しくリハビリをし、不自由を自由に変わるかというところが一番響きました。リハビリは不自由な方々にとってはとても大変だし、苦痛だと思いません。それを楽しく活動し、治していくのがすごいと思いました。言語聴覚療法は、この講話を聴く前にリハビリセンター白鳥の見学をしている時、おじいちゃん、おばあちゃんが、『パ・タ・カ・ラ』と繰り返して言っていて不思議に思っていました。それは舌の動きを衰えさせないようにする訓練だったことをこの講話で聞き、作業療法も言語聴覚療法も楽しみながらリハビリしていくことを第一に考えているのでいい仕事だし、やりがいのある仕事だと思いました。」

「私は、作業療法や言語聴覚療法について言葉では今まで聞いたことがあったけれど、実際にはどのようなことを行うのかなどは詳しく知らなかったので、とてもよい機会になりました。作業療法士や言語聴覚療法士の仕事の内容を聞いて、どのような仕事を行うのか理解できました。私は福祉の分野に興味があり、将来は福祉関わる仕事に就きたいとっていて、作業療法士について特にいろいろ知ることが出来たのでとてもよかったです。作業療法士や言語聴覚療法士は人を笑顔にする仕事だと思いました。」

「作業療法、言語聴覚療法という名前は聞いたことがあったけど、名前以外は何も知らなかった。自分たちが普段当たり前のようにできていることが、病気や怪我などで突然できなくなったしまった時、できるように治していくこと、また、生まれつきできないものをできるようにサポートしていくのが作業療法士、言語聴覚療法士のしていることだと初めて知った。今回の講義でどのような人が対象なのか、どんな方法で行うのかなど、多くを学ぶことができた。『作業活動』を通して、楽しみながら実際の生活の中でできるようにしていくのが印象に残った。」

～本校では、E S Dを推進し、一人一人の夢を実現するための学びを進めています～